

令和4年6月定期総会 議事に関する説明

特定非営利活動法人 産学連携学会
会長 石塚悟史



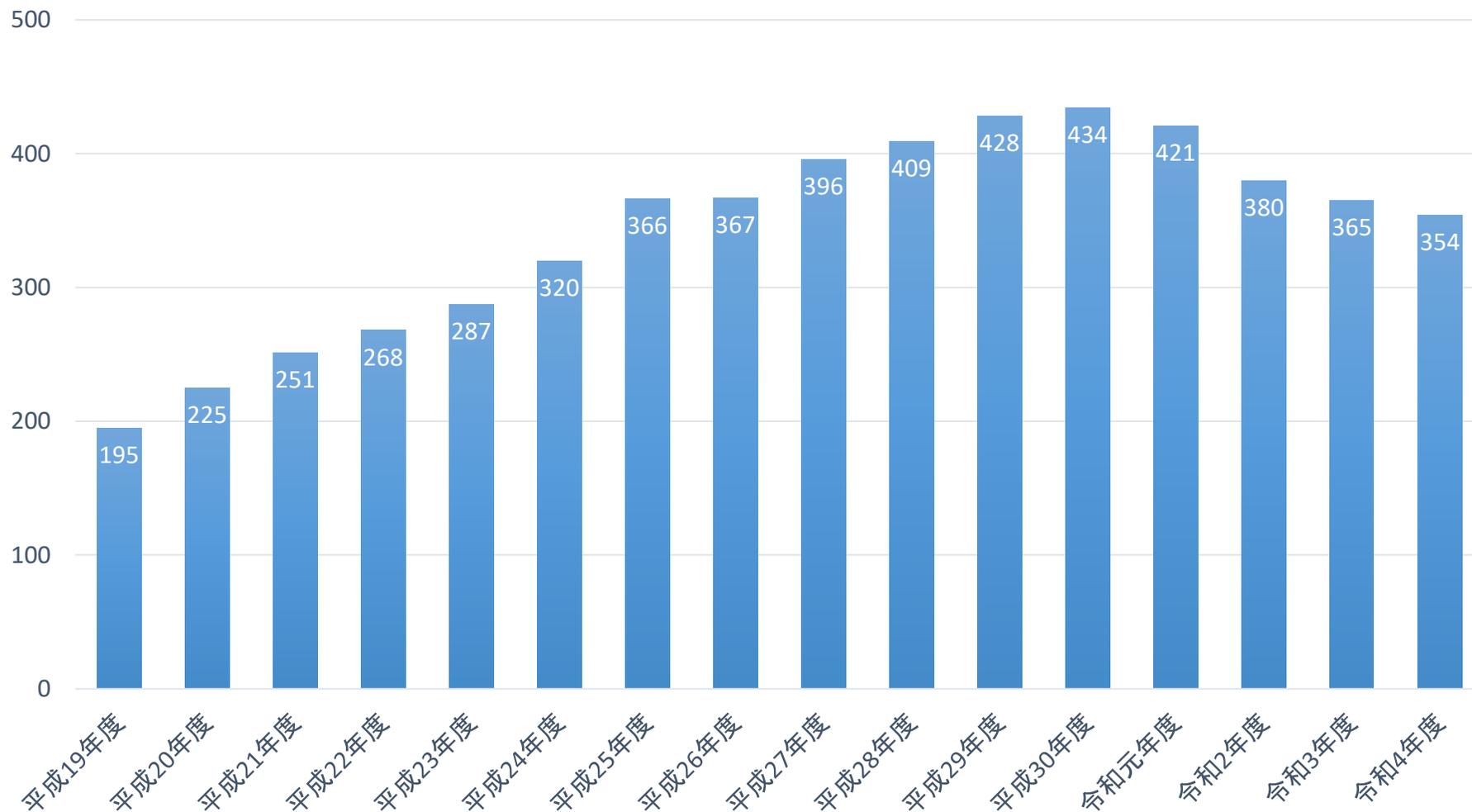
第10期運営の基本

『新しい価値の創生』

(学会員のための学会)

⇒ 原点に立ち、会員のための学会

会員数推移



会員数は微減となりました

1. 学会誌, 研究大会の充実

1. **大会の開催**: 令和3年6月3日～4日の日程で第19回大会(名古屋大会)をオンラインにて開催した(参加者数222名、発表件数72件)
2. **学会誌の発行**: 学会誌「産学連携学」第17巻第2号を令和3年6月30日に、第18巻第1号を令和3年12月31日に発行した(第18巻第2号より電子化予定)
3. **シンポジウムの開催**: 令和4年2月4日に「産学連携学会 2021年度シンポジウム 2050年カーボンニュートラルの達成に向けた攻めのオープンイノベーションー持続可能な社会を目指したグリーン成長戦略ー」をオンラインにて開催した(参加者:874名)
4. **海外学会との交流**: 韓国の産学協力学会との二国間比較研究については、コロナウィルス感染拡大により、現地での学術交流は制限があり、できなかったが、韓国の産学協力学会との交流企画を検討した

II. 支部・研究会活動の活性化

各支部活動

1. **北海道支部**:「令和3年度第10回道内4高専・道総研工業試験場・北海道科学大学研究交流会」の後援と開催協力(令和3年12月15日:オンライン開催)
2. **東北・北関東支部**:東北地区大学発ベンチャー協創プラットフォーム主催「デザイン思考ワークショップの実践を学ぶ」の共催(令和4年1月22日、1月29日、2月5日:オンライン開催)
3. **中部・北陸支部**:令和3年10月8日の理事会において支部設置を承認
4. **関西・中四国支部**:令和3年11月30日に第13回研究・事例発表会をオンライン開催(参加者:32名)
5. **九州支部**:SDGs、カーボンニュートラル、医工連携に関するイベントの開催を検討した

II. 支部・研究会活動の活性化

研究会活動

1. **オープンイノベーション研究会**:シンポジウムの開催支援(令和4年2月4日)、令和3年11月12日にWebセミナー「産学連携で創出するイノベーション」(主催:高知大学次世代地域創造センター、共催:産学連携学会、リンカーズ(株))の開催(参加者:88名)
2. **リサーチ・アドミニストレーション研究会**:産学連携学会第19回大会オーガナイズドセッション「スタートアップ・中小企業等によるイノベーション創出と大学の関わり方」(令和3年6月4日:オンライン)、および第13回研究会「URA・研究支援者の楽しみ方」(令和3年12月16日:オンライン、参加者18名)の開催
3. **地域社会実装研究会**:令和3年10月25日に第5回研究会「人工知能技術を活用した価値創造と産学連携」をオンライン開催(参加者:27名)、令和3年12月23日に第6回研究会「産学連携における知財と社会実装」をオンライン開催(参加者:20名)、令和4年2月17日に第7回研究会「産学連携活動における学生の参画～事例と課題の研究～」をオンライン開催(参加者:20名)
4. **ESD研究会**:令和3年10月8日の理事会において研究会設置を承認、令和3年10月25日の地域社会実装研究会と共催
5. **行動経済・社会システム研究会**:研究会会合(令和3年7月13日)、サントリー文化財団研究助成、稲盛財団稲盛研究助成、旭硝子財団、日立財団倉田奨励金への研究費申請⁶
6. **日韓比較研究会**:第6回日韓ワークショップの開催検討

III. その他の活動

1. **ニュースレターの発行**: 今後のニュースレターの電子化について検討した
2. **メールニュースの発行**: 第1089号～第1150号発行(62回)
3. **各種イベントや展示会での出展**: 「アグリビジネス創出フェア2021」への出展(令和3年11月26日: 東京ビッグサイト)
4. **共催事業**: 地域活性学会東日本大震災後10年特別大会(地域活性学会主催、令和3年5月22日～23日: オンライン)、Webセミナー「産学連携で創出するイノベーション」(高知大学次世代地域創造センター主催、令和3年11月12日: オンライン)の2件
5. **後援事業**: 「アグリビジネス創出フェア2021(農林水産省主催、令和3年11月22日: 東京ビッグサイト)」

令和3年度 活動計算書

特定非営利活動法人 産学連携学会

(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
(A) 経常収益		
1 受取会費		4,797,800
入会金	149,000	
年会費	4,648,800	
2 受取寄附金		800,000
受取寄附金	800,000	
3 受取助成金等		0
4 事業収益		1,602,250
研究事業収益	675,000	
啓発事業収益	894,750	
講演・研修事業収益	32,500	
5 その他の収益		36
受取利息	36	
経常収益計		7,200,086
(B) 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		386,822
謝金	386,822	
(2) その他経費		3,195,575
事務用品費	0	
消耗品費	30,130	
通信費	202,632	
支払手数料	1,225,475	
会議費	0	
外注費	0	
印刷費	1,733,884	
リース料	3,454	
事業費計		3,582,397
2 管理費		
(1) 人件費		0
(2) その他経費		3,533,694
事務用品費	220	
租税公課	1,200	
減価償却費	13,620	
通信費	306,741	
支払手数料	117,849	
外注費	3,094,064	
管理費計		3,533,694
経常費用計		7,116,091
当期経常増減額 (A) - (B) ...①		83,995
(C) 経常外収益		
固定資産売却益		
過年度損益修正益		
経常外収益計		0
(D) 経常外費用		
固定資産売却損		
災害損失		
過年度損益修正損	15,315	
経常外費用計		15,315
当期経常外増減額 (C) - (D) ...②		-15,315
税引前当期正味財産増減額 ①+② ...③		68,680
法人税、住民税及び事業税 ...④		
前期繰越正味財産額 ...⑤		4,025,040
次期繰越正味財産額 ③-④+⑤		4,093,720

第2号議案：令和3年度決算報告

2020年度と2021年度の活動計算書の比較

年度	2020年度	2021年度
(A) 経常収益計	7,956,103	7,200,086
(B) 経常費用計のうち事業費計	4,173,775	3,582,397
(B) 経常費用計	7,737,094	7,116,091
次期繰越正味財産額	4,025,040	4,093,720

活動計算書項目比較

(単位：円)

年度	2020年度	2021年度	備考
I 経常収益			
大会、総会等			
研究事業	766,500	675,000	受取寄附金 2020年度：1,190,000 2021年度：800,000
学会誌等			
啓発事業	877,500	894,750	
講演事業	45,290	32,500	
支部、研究会、シンポジウム等			
管理部門	5,076,800	4,797,836	年会費 2020年度：4,960,400 2021年度：4,648,800 入会金 2020年度：116,400 2021年度：149,000
II 経常費用			
研究事業	2,161,957	1,550,813	
啓発事業	1,780,664	1,900,400	印刷費 2020年度：1,482,692 2021年度：1,733,884
講演事業	231,154	131,184	
管理部門	3,563,319	3,582,397	事務局委託費 2020年度：3,094,064 2021年度：3,094,064

事業毎の各期の経常増減額 (単位：円)

	2020年度	2021年度	備考
研究事業	-205,454	-75,813	
啓発事業	-903,164	-1,005,650	学会誌の電子化の準備が完了。今後印刷費は低減。
講演事業	-185,885	-98,684	
管理部門	1,513,512	1,264,142	
経常増減額	219,009	83,995	当期も何とかプラス

- 2021年度も2020年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響のため、大会の開催がリモートで行われ、事業規模は2020年度と同等。
- 学会誌の電子化の準備が整ったことで、印刷費の削減は今後実現可能。
- 会費収入は減少傾向であり、学会の在り方についての議論も進め、新たな支部や研究会などの活動により、会員増強を進める必要がある。

令和3年度は単年度収支で68,680円の黒字となりました

第3号議案: 令和4年度事業計画

1. **大会の開催:** 第20回大会(熊本大会)を6月23日～24日に開催
2. **学会誌の発行:** 「産学連携学」を年2回発行(電子版)
3. **産学連携学入門の改訂版の検討:** 電子書籍検討委員会を設置
4. **学会HPのリニューアルを検討**
5. **秋季シンポジウムの開催**
6. **韓国の産学協力学会との連携強化:** コロナウィルスの影響を考慮し交流事業を検討
7. **ニュースレターの発行:** 年2回を予定、電子化を検討
8. **メールニュースの発行:** 随時

9. 支部活動の強化:

- ・北海道支部: 東日本リエゾンカンファレンス開催(東北・北関東支部との共催)、産学官連携交流のためのセミナー等の開催、支部HP運用
- ・東北・北関東支部: 北海道支部と連携した東日本リエゾンカンファレンスを2回開催、他地域とのイベントも実施を検討
- ・中部・北陸支部: キックオフイベント「イグイノベーション・コンテスト」の開催、研究会の開催(令和4年12月頃開催予定)、地域課題検討会(年4回程度オンライン開催)、幹事会開催(年2回研究会、検討会に合わせて)
- ・関西・中四国支部: 令和4年12月頃に第14回研究・事例発表会開催する予定(場所:未定)に加え、幹事会(令和4年5月、令和4年12月、令和5年3月)の開催を予定
- ・九州支部: 九州内の産学連携学会会員を中心に、産学連携にかかわる勉強会を開催、SDGs、カーボンニュートラル、医工連携に関するイベントの開催

10. 研究会活動の強化:

- ・オープンイノベーション研究会:シンポジウムの開催支援及び連続セミナーの開催を予定
- ・リサーチ・アドミニストレーション研究会:全国大会におけるオーガナイズドセッションの開催及び研究会の開催(年度後半に2回程度)、分科会/地方支部会として年数回程度各テーマ、地方ブロックにおける担当者ベースで適宜意見交換の場等の開催、研究会幹事会(令和5年2月予定)の開催
- ・地域社会実装研究会:研究会(4回程度)の開催
- ・ESD研究会:ESDと産学連携(仮題)という研究会を開催
- ・行動経済学・社会システム研究会:研究会の開催、オンラインを主体とした情報交換とともに現地調査や対人インタビュー等のフィールド活動を実施予定
- ・日韓比較研究会:日韓比較研究の推進と研究成果の発表、日韓ワークショップの開催検討

11. 支部・研究会活動の強化:各種イベントや展示会での出展

第4号議案：令和4年度事業予算計画

令和4年度「特定非営利活動に係る事業会計」予算書

科目		金額（単位：円）	
収入			
1. 会費収入			
	会費	4,700,000	
	入会金	150,000	4,850,000
2. 事業収入			
	研究事業	4,000,000	
	啓発事業	200,000	
	講演事業	200,000	4,400,000
当期収入合計 (A)			9,250,000
支出			
事業費			
	研究事業	4,000,000	
	啓発事業	1,150,000	
	講演事業	530,000	5,680,000
管理費			
	事務局委託料	3,090,000	
	通信費	340,000	
	支払手数料	120,000	
	減価償却	20,000	3,570,000
当期支出合計 (B)			9,250,000
当期収支差額 (A) - (B)			0
前期繰越収支差額 (C)			4,093,720
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)			4,093,720

令和2年度の実績をベースとした収入見込み。協賛制度の充実とともに、会員増加を図る。

リアルとリモートでの支部、研究会活動を推進し、収入増を目指す。アーカイブ事業の寄附金収入。

論文誌、ニュースレター、産学連携学入門の電子化。

事務局委託費。デジタル化に伴う郵送費のコスト削減とリモート会議やセミナー等の開催に必要な契約費用を計上。

産学連携学入門改訂(電子書籍)の検討、HPリニューアルができるよう財源確保に努める。

第5号議案：定款の変更

NPO 法改正(平成 29 年)により、毎年度の貸借対照表の公告が必須となりましたことに伴い、以下の通り定款を変更したい旨、提案いたします。

現行定款	定款変更案
(公告の方法) 第 54 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。	(公告の方法) 第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。 <u>ただし、法第 28 条の2第 1 項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページにて行う。</u>

第6号議案：令和4年度表彰者

業績賞：

藤枝 繁(鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター長／特任教授) 氏
烏谷 直宏(大阪府立農芸高等学校 首席・ハイテク農芸科長) 氏

論文賞：該当なし

功労賞：該当なし

特別賞：該当なし

【令和3年度役員】(令和4年6月17日時点)

会 長: 石塚悟史(高知大学)

副会長: 飯田香緒里(東京医科歯科大学)、伊藤慎一(秋田大学)、緒方智成(熊本大学)、
北村寿宏(島根大学)、菅万希子(国際ファッション専門職大学)

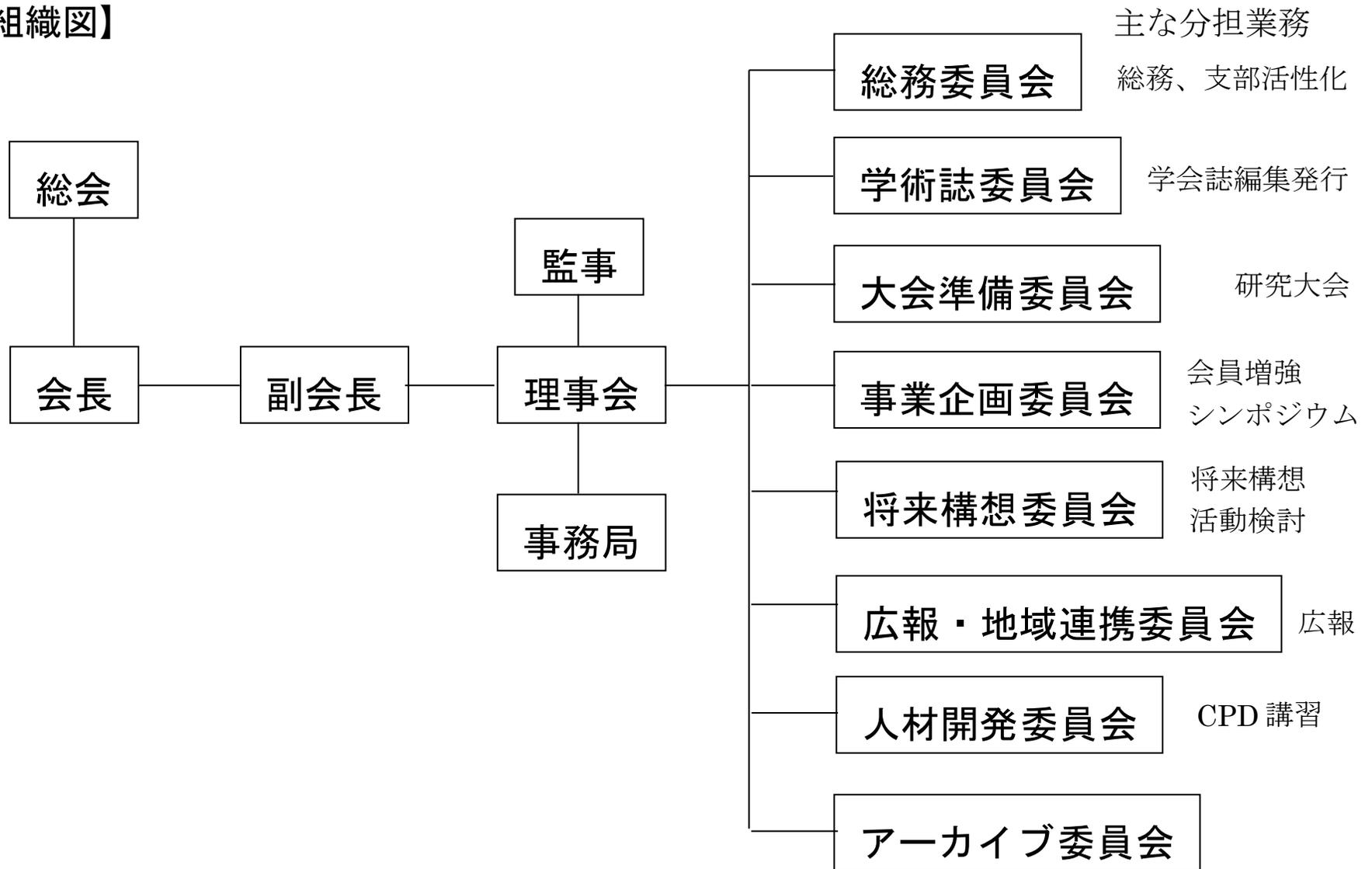
理 事: 内島典子(北見工業大学)、内山大史(弘前大学)、
江田英雄(光産業創成大学院大学)、小野浩幸(山形大学)、川名優孝(東海大学)、
宜保友理子((株)慶應イノベーション・イニシアティブ)、木村尚仁(北海道科学大学)、
木村雅和(静岡大学・静岡理工科大学)、
佐藤喜一(国立研究開発法人科学技術振興機構)、永富太一(香川大学)、
J. Radhakrishnan Nair(P&G イノベーション合同会社)、馬場大輔(経済産業省)、
松平竹央(知財経営研究社)、松本毅((一社)Japan Innovation Network)、
矢野卓真(名古屋工業大学)、山本一枝((株)ウエザーコック)、吉用武史(高知大学)

(会長、副会長を加え23名)

監 事: 網屋毅之(大谷特許事務所)、林聖子(亜細亜大学)

事務局長: 飯田香緒里(東京医科歯科大学)

【組織図】



産学連携学会 第21回大会【高知大会】 ～学会創立20周年記念大会～

会期：2022年（6月開催にこだわらない？）
6～9月の2日間（木金？、金土？、土日？）

会場：高知大学朝倉キャンパス
もしくは高知市中心街

ありがとうございました